

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

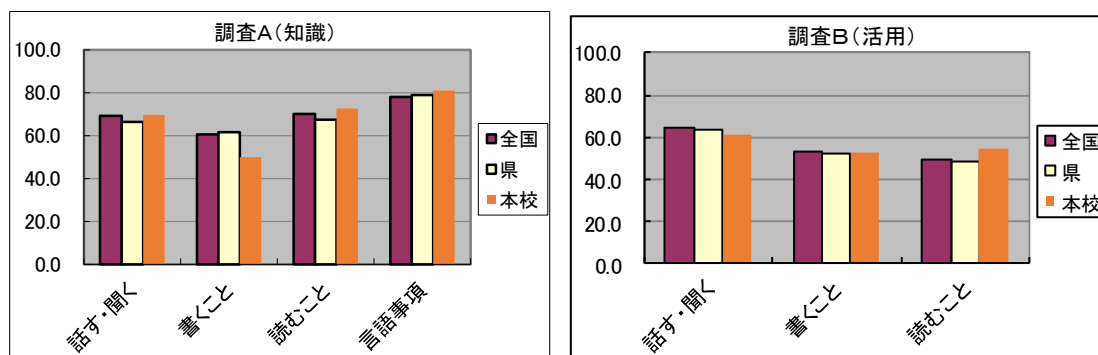
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)では、全国の正答率を上回ったが、領域別にみると「書く」領域は全国、県を下回った。調査B(活用)は全国の正答率を上回ったが、領域別にみると「話す・聞く」領域は全国、県を下回った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題」は、全国の正答率を上回った。しかし、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題」は、全国の正答率を下回った。話すことの中心や接続詞等を工夫して話すことができるように指導する必要がある。

書く

・「目的や意図に応じ引用して書く問題」の正答率は、全国の正答率を大きく上回ったものの、「話の中心を明確にして、詳しく書く問題」や「文章全体の構成を考える」問題の正答率が良くなかった。読み手に一番伝えたいことは何か、話の中心をはっきりさせることが大切である。また、「はじめ—なか—おわり」のように文章構成を考えた作文を書く機会を授業中だけでなく、授業以外でも増やしていく必要がある。

読む

・「俳句の情景を捉える問題」や物語文の「登場人物の相互関係や心情、描写を捉える問題」の正答率は、全国の正答率を上回った。しかし、「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題」は、全国、県の正答率を下回った。話し合いで友だちの考えを聞くときには、自分との共通点や相違点を常に意識して聞くよう指導する。

言語事項

・「漢字を正しく書く問題」の正答率は、ほぼ90%以上だった。日頃の意欲的な漢字学習への取り組みの成果である。しかし、「たいしょう」のように数種類の表記がある同音異義語の正答率が低かった。その漢字だけに着目するのではなく、前後の文章から判断しなければならないような問題に取り組ませる機会を増やしたい。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

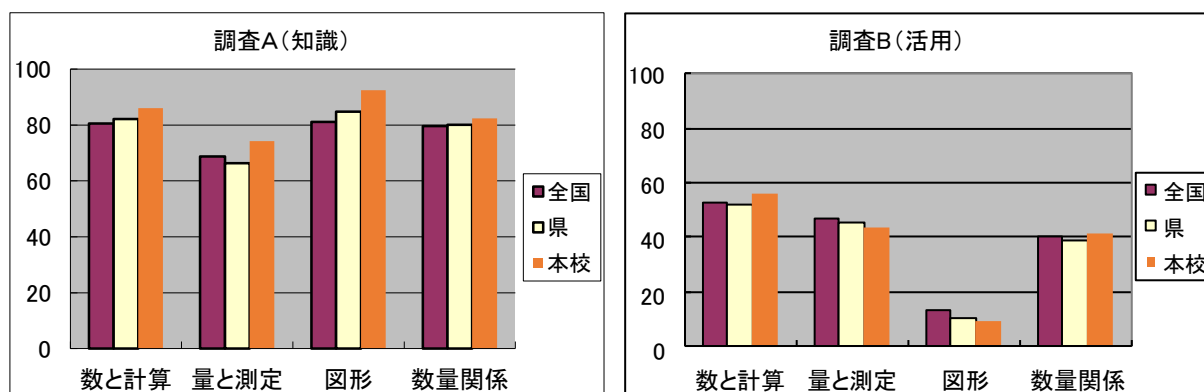
- 学校では、先生や友達の話最後までしっかりと聞くよう指導していきます。また、話の内容について、どのような内容だったか問いかけたり、内容の中心（言いたかったことは何か）を問いかけるなどして、話をよく聞くことができているかを確認していきます。
- 他の教科でも、自分の考えを表現する機会を意図的に設けていきます。また、友達のと比べて分かることや、グラフ等の資料から分かることを書いて表現する機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- ノートプリント、テスト等の文字を見てください。「字をていねいに書く」「習った漢字は必ず使う」等お願いします。学校と家庭で共通の声かけをすることで、子どもたちの意識もさらに高まります。
- 本や新聞を読む習慣をつけましょう。多くの文章に触れることが、語彙力を高め、知識の幅を広げ、生きる力を身に付けることへ繋がります。親子で読み、内容について話し合う機会を作るといいですね。

2 算 数

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)では、全領域で全国を上回っている。調査B(活用)も、全体では全国をやや上回っているが、「量と測定」「図形」領域は全国を下回った。記述式の問題の正答率は高く、問題解決型の授業を多く取り入れてきたことが功を奏している。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の数の構成を十分に理解できていない。特に小数と整数の加法では、筆算をする時に小数点を揃えていないという基本的な内容の定着が不十分な子もいるので、計算タイムなどで定着させる必要がある。

量と測定

・「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題」の正答率が低く、無回答率も全国を上回った。仮の平均と測定値の差から平均を導くという思考が難しかったようなので、平均を求める式に頼らず、様々な見方で平均を捉えるように指導する。

図形

・「五角形の性質を問う問題」や「立体の面と面の位置関係を問う問題」では、授業での具体的操作を通し学習した成果が見られ、90%以上の正答率だった。反面、活用問題の正答率が低いのは、長文での出題と割合の要素を含んだ問題に抵抗を感じたことに起因していると考えるので、今後、このような問題に取り組ませていく。

数量関係

・「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題」の正答率が低かった。規準量や比較量から割合を考えることができても、「それを適切に表すグラフがどれなのか」まで深く思考できていない。割合を捉えやすいグラフはどれか、数量とグラフの関係などグラフの特色について理解させる必要がある。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

- 授業では、自分なりの解決方法を考え、友達と意見を伝え合いながら、みんなで理解を深める問題解決型の学習を実践しています。今後は、文章や図から得られる情報に下線を引いたり書き込みをしたりして問題の意味をとらえる習慣をつけ、より一層練り合いの時間を充実させていきたいと思います。
- TT、少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めています。指導方法改善担当と担任が今後も連携し、必要に応じて課外補習などを行っていききたいと思います。また、朝の「計算タイム」では、基本の四則計算の定着を図るよう指導していきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通し、関心を持ってください。
- ちょっと意識をすると、身の回りには算数があふれています。例えば料理。水一人分は〇mLだから4人分では…?計量カップで水のかさを量る体験をすると量感が身に付きます。調味料のおいしい比を考えてドレッシングを作る、8等分したトマトは、4人家族で一人何個かな?このように算数がたくさん隠れています。家庭生活の場面で算数を使う機会を増やしましょう。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国 %
毎日同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	81.8	79.8
毎日同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	97.0	91.2
朝食を毎日食べていますか。(どちらかといえばしているも含む)	87.9	95.4
平日2時間以上テレビを見る。(DVD・ビデオも含む)	48.4	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	24.3	31.1
平日1時間以上スマホ・パソコン等で、通話・メール・インターネットをする。	21.2	20.5
新聞を毎日読んでいますか。(週半分以上)	36.4	21.0
テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見えていますか。	78.8	54.5

定刻の起床、就寝については良好であるが、朝食を毎日食べていない子が1割程度いるので、保護者との連携を深め改善を図りたい。平日のテレビ等の視聴時間は、全国と比べてやや少ないという結果であるが、平日に4時間以上テレビ(DVD・ビデオ含む)を見る子が12%、4時間以上ゲーム(TVゲーム・パソコン・携帯型含む)をしている子が9%いることも分かったので、長時間使用者への指導が必要である。新聞を毎日読むことやテレビのニュース番組を見ている子の割合が全国、県よりも高かった。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国 %
平日1時間以上勉強している。	87.8	64.4
平日1時間未満勉強している。(全くしていないは除く)	9.1	32.7
休日(土日)1時間以上勉強している。	72.8	57.3
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	96.9
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	27.3	41.0
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	78.8	53.8
平日読書を30分以上している。	45.5	36.5

家庭学習については、意欲的に取り組んでいる様子を伺うことができる。平日の学習時間が3時間以上の子が21%、休日でも9%の子が4時間以上学習に取り組んでいる。また、学校で出された復習を中心とした課題への取り組みが多く、予習への取り組みは全国よりも低い結果であった。

読書については個人差が大きく、平日2時間以上読書をしている子が12%いる一方、平日は全くしないという子が3%いるので、読書週間への取り組み等、読書へのきっかけとなる機会を設けていきたい。

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 目標家庭学習時間(1時間)を全児童が達成できるよう、学年に応じて自主学習(自学)を取り入れるなど、宿題の出し方を工夫します。
- 図書館祭りを設定し、「おすすめの本」を紹介したり、多読者を表彰したりすることで、児童が読書をしたくなるような環境作りをしていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活は、子どもの健やかな成長に不可欠です。「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底と「決まった時刻に就寝」できるよう、ご家庭での声かけをお願いします。
- 「家庭学習のすすめ～てびき～」をご覧になり、毎日継続して家庭学習ができるように励ましてください。家庭学習時間の目安は低学年30分、中学年45分、高学年60分です。休日も学習するよう声をかけましょう。今年度も取り組んでいる「まなざしカード」を活用した基本的な生活習慣と学習習慣の改善を図る取組にご協力をお願いします。また、筆箱を見るだけでも、子どもの学習や生活の様子を伺い知ることができます。定期的な「学習用具の点検」をお願いします。